

秋厚労ニュース

辞めれない職場づくり

2019年度方針案より

9月21日の秋厚労定期大会では、総括案をひまえた2019年度方針案について論議します。

現場の苦しみの背景には日本の政策

日本政府は1980年代を転機に、医療費を抑制する政策を取ってきました。医療だけでなく、介護・年金・教育・雇用など公的な「社会保障」の仕組みを破壊し、大企業が参入しやすいように市場化を推し進めてきました。

患者側から見れば、医療費の個人負担が増えるなど医療を受けにくい現状がつけられています。最近「人口減少」を理由に、医療機関・学校・バス路線などがさらに集約化されて

います。今以上に「暮らしにくい地域」になり、「人口減少」に拍車がかかります。「安心して暮らし続けるために、こういう地域にしたい」と声をあげ、全国の仲間や行政と一緒に変える運動が必要です。

やりがいを感じ人を誘える職場づくり

病院の運営は、唯一の収入である診療報酬に左右されます。現場では業務の増加や深刻な人手不足に苦しみ、「患者の状態よりも病院の都合で動いている」「やりたい医療ができない」とい

2019年度も、これまでの運動を継続し、次の4つの柱に力を入れます。「①内外の人が働きたいと思うような職場づくり、キーワードは『やりがい』を

感じる・辞めれない・人を誘える②学び、厚生連内、地域、全国とつながる③労働

集まることもたたかい

業務量の増加や職種・働き方の違い(正職員、臨時職員、委託・外注)等により、現場には「周りの人と力を合わせにくい状況」「分断」が多く存在します。

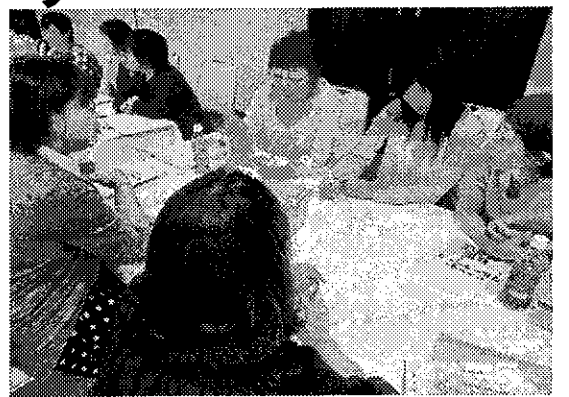
学び、全国と力をあわせて解決を目指す
人手不足や「患者のことを思った医療ができない」こと、住民や病院の大変さの原因や解決方法を学びます。そのためにみんなで誘い合って、支部・本部・全県・全国の集まりに参加し、視野を広げることが大事です。

具体的な行動方針(案)

- 課題1 労働時間をきちっと守る
- 課題2 ハラスメントのない職場をつくる
- 課題3 お休みはお互いさまの職場をつくる
- 課題4 働き続けることができる賃金や一時金を確保する
- 課題5 初任地や転勤の問題点を改善する
- 課題6 臨時職員という差別雇用を是正する
- 課題7 定年や再雇用の問題点を整理する
- 課題8 安心して働き続けることができる職場をつくる
- 課題9 現場スタッフとの懇談を続ける
- 課題10 患者さんと心通わせる病院食をつくる
- 課題11 検査の人手不足解決をめざして運動する
- 課題12 患者さんと心通わせる看護をつくる
- 課題13 在宅医療の改善をめざして運動を起こす
- 課題14 リハビリ職場が抱える課題の解決をめざす
- 課題15 住民とともに医療を守る
- 課題16 県内各地を会場に「医療に関する学習会」を開催する
- 課題17 国に対する働きかけを強める
- 課題18 女性がいきいきと働ける職場をつくる
- 課題19 青年がいきいきと働ける職場をつくる
- 課題20 教育宣伝部を大きくし、多面的な活動をする
- 課題21 支部と本部が連携して取り組みをする
- 課題22 「集まる」ことを大切に
- 課題23 みんなに知らせ、みんなで考え、みんなで悩み、みんなで決めて、みんなで行動する労働組合をめざす
- 課題24 医労連共済を普及する

労働組合の一番大きな力は「一人のつながり」。「分断」を乗り越え集まること自体が、「職場を良くし、より良い医療をするための闘い」と位置づけられます。職場の課題について、全支部で支部交渉を行い、本部の団体交渉と

組合の日常的な活動に力を入れる④住民視点の地域医療をつくる」です。連携して解決を目指します。



昨年の定期大会でのグループ討議の様子